

①

ケイちゃんの 消えない雲



原作者：吉村大作

作画：ユリヤ・ボンダレンコ

①



ケイちゃんまいあさは毎朝、仕事しごとに出でかけるお父さんとうさんを見み送おくっていました。

②





ある夏の朝、それは8月6日のことでした。

ケイちゃんの街「広島」に、小さな黒くて丸いものが落ちてきました。

「あれはなんだ？」空を見た人たちが言いました。

③



③



そのあとすぐ、世界中に聞こえそうな爆発音が

「ドゴオオオッン」と鳴り響き、

街を全て覆い尽くす、大きな大きなキノコ雲が現れました。

④





街は一瞬にして消え、家も学校も病院もなくなりま
した。

街は跡形もありません。

核兵器という、とても怖ろしい爆弾が落とされたの
です。

⑤





ケイちゃんは奇跡^{きせきてき}的に無事^{ぶじ}でしたが、川^{かわ}には焦^こげた
人^{ひと}が浮^うかび、ケイちゃんのところにも「みず…、み
ずをくれ」と肌^{はだ}が焼^やけただれた人^{ひと}がやってきました。

その人^{ひと}たちは救^{すく}われませんでした。

そして、ケイちゃんは家族^{かぞく}と会^あえませんでした。

⑥





たった一つの核兵器が十万人を超える命を奪いまし
た。

また、核兵器が落ちた後に降った黒い雨は、多くの
人々を重い病気で苦しめました。





やがて戦争は終わ^おり、ケイちゃんはおばあちゃんに
なりました。

すでに広島^{ひろしま}の街は綺麗^{きれい}に戻^{もど}きました。

核兵器^{かくへいき}を落^おとされたことが信じ^{しんじ}られないくらいで
す。

8





しかし、明るく晴れた日も、ケイちゃんの心はずつ
とキノコ雲で曇っています。

あの時、死んでしまった人も、生き残った人も、そ
の悲しみは何十年経っても消えていません。





ケイちゃんは今、核兵器の怖ろしさを世界中の人々に伝えていきます。

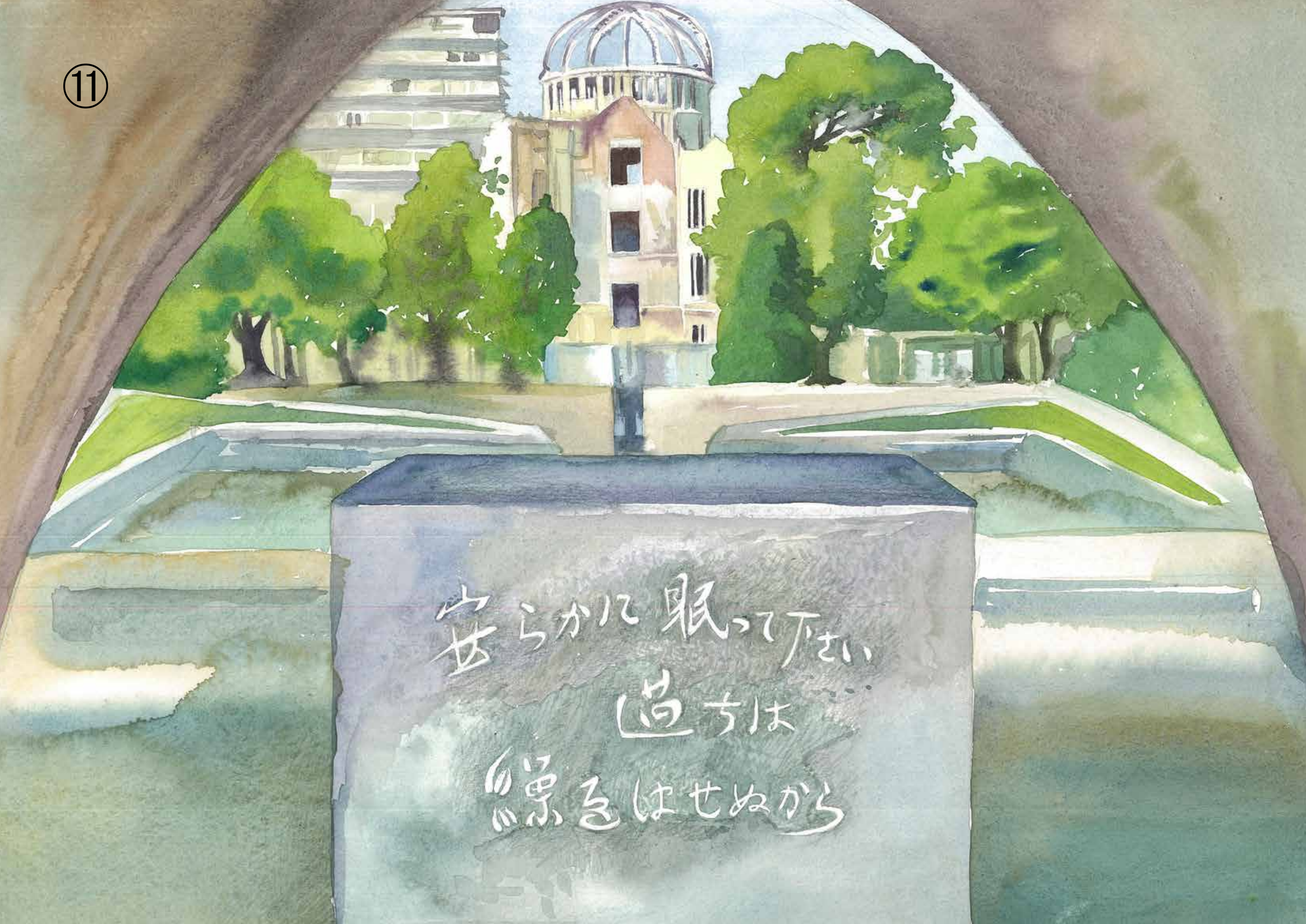
核兵器を使う戦争が起きたら、世界中の人々が死んでしまうからです。





核兵器^{かくへいき}を使う^{つか}なんて、もう二度^{にど}と繰返^{くりかえ}してはなりません。

それがケイちゃんのたった一^{ひと}つの願^{ねが}いです。



安らかに眠って下さい
 過ちは
 繰返はせぬから



せかいじゅう

ひと

世界中の人たちが笑顔でありますように。

おしまい。





ケイちゃんの「消えない雲」

今日は、ケイちゃんという8歳の女の子のお話をします。

ケイちゃんの住む日本では戦争が起きていました。